

平成 27 年度 第 2 回文京区協働推進委員会担い手創出プロジェクト支援本部 要点記録

日 時：平成 27 年 11 月 25 日（水） 午前 9 時～12 時 00 分
場 所：シビックセンター12 階 地域振興会議室

<会議次第>

- 1 開会
- 2 支援プロジェクトの継続審査等について
- 3 プレゼンテーション及び質疑について
- 4 プロジェクトの審査について
- 5 その他
- 6 閉会

<出席者（名簿順）>

八木 茂 本部長（区民部長）、安藤 哲也 本部員、各務 茂夫 本部員、菊地 端夫 本部員、
丁 寧 本部員、古矢 昭夫 本部員（区民課長）、阿部 英幸 本部員（協働推進担当課長）

【関係課】

榎戸 研 防災課長、福澤 正人 経済課長、熱田 直道 観光・国際担当課長 兼務 オリンピック・パラリンピック推進担当課長、鈴木 秀洋 男女協働・子ども家庭支援センター担当課長

【事務局等】

区民課主査（1）、区民課主任主事（1）、パートナー事業者（株式会社エンパブリック）（3）

<議 論（要点）>

1 開会

八木区民部長：開会あいさつ

阿部協働推進担当課長：出席状況と資料について確認。井上本部員は欠席。菊地本部員、
丁寧本部員については、海外に滞在中のため、スカイプでの参加となる。

2 プロジェクトの選考方法について

阿部協働推進担当課長：資料第 2 号に基づき、対象団体について説明。7 月及び 8 月に採
択した 4 団体について、継続審査を実施する。審査は、1 団体当たり、プレゼンテーシ
ョン 10 分、質疑応答 15 分の合わせて 25 分で進めていく。

3 プレゼンテーション及び質疑について

<プレゼンテーション 1 >

プロジェクト名：ブランクではなくギャップイヤー！～ライフイベントによる長期休暇
がキャリア中断にならない文京区をつくる～

団体：NPO 法人 ArrowArrow

<質疑>

各務本部員：団体として、最終的に何をもって成果とするのか。

プレゼン団体：女性管理者が増えるということ、また、産育休取得者の管理職が増える
というのを指標として考えている。

各務本部員：このプロジェクトの目標と団体としての成果を合わせて考えたときに、第2クールでは何をを目指すのか。

プレゼン団体：制約がありながらも働く意欲のある女性同士のコミュニティを作るということを第2クールでしていきたい。団体として、これらのコミュニティに対して悩みの相談にのったり、行き詰ったりした場合にアドバイスをしていく。

各務本部員：女性と中小企業、どちらをターゲットとして考えているのか。

プレゼン団体：制約のある女性が企業にとって、どれだけ貴重な戦力になるかというのを中小企業に気が付いて欲しいと考えている。アプローチ先としては中小企業である。

各務本部員：実際に中小企業にアプローチをして考え方を定着させるためには何が必要なのか。

プレゼン団体：企業にとって断絶するキャリアを持っている女性は活躍できないという前提がある。長時間労働でなければ成果が出せないというところに対して、働き方の改善を含めて提案をしていく。本来、女性だけの問題ではなく、男性も、男性の管理職も変わっていかねばいけない問題であるが、ライフイベントを迎え問題が顕在化した女性が成功することで、他の多くの社員に対してもアプローチできるということを企業に対して、伝えていきたい。

八木本部長：第1クールが終わって、ビジネスモデルはどのようなものになると感じているか。

プレゼン団体：第1クールではその仮説を得ることができなかった。企業から協賛金や個人からの参加費等が収益に繋がれるといえればよかったが、参加者数が少なく、ワークショップが中止になったり、企業の訪問もこれからという段階であり、ビジネスモデルについては、検討しきれていない。企業か個人かどちらかからの収益で回していきたいとは考えている。

八木本部長：事業の進捗が遅れているということだが、今の進捗状況を教えてほしい。

プレゼン団体：第1クールの計画から2ヶ月ほど遅れている状況で、8ヵ月後の目標として掲げたことについても、第2クールが終わるまでに達成できない見込みである。ただ、8ヶ月の期間内には終わらないかもしれないが、時間がかかっても、プロジェクトの資金がなくても、文京区内に女性のコミュニティを作ることについては、必ず成し遂げようと決めている。

菊地本部員：このプロジェクトは文京区という地域的なまとまりを持って行う事業であるが、団体として、社会を変えるということを目指してやっていく中で、文京区ならではの地域性や課題などを教えてほしい。

プレゼン団体：第1クールで出会った方々から、文京区は世帯年収が多く、裕福な方が多いと感じている。お金を稼ぐことが仕事に対するモチベーションではなく、成果ややりがいモチベーションにしている方が多い。そういった女性を管理職等として活躍するロールモデルになれるように支援していきたいと考えている。

菊地本部長：アンケートは区内の企業向けに行っているということだが、文京区に住んでいる人が区内の企業に勤めているとは限らないし、また、区内の企業に勤めている人が文京区に住んでいるとも限らないのではないか。

プレゼン団体：今後、アンケートに答えてくれた企業の従業員向けにワークショップも実施していきたいと考えている。今回個人向けに行ったワークショップには、文京区在住の方が多く来ていた。文京区に住んでいる人がどれくらい区内の企業に勤めているのか、多くの方がそうなのか、それともほとんどの人が違うのかなどは今後検証していきたい。

鈴木男女協働・子ども家庭支援センター担当課長：コミュニティを作りたいということだが、現状でも様々なコミュニティが存在している。どのようなコミュニティを作りたいのか。

プレゼン団体：働く女性のコミュニティで、自分の言葉で話せる場所というのをイメージしている。

<プレゼンテーション2>

プロジェクト名：まちのキャッチフレーズ、創って使い倒してずっとつながるプロジェクト

団体：文京かるた隊

<質疑>

各務本部長：第2クールではクラウドファンディングを行うということだが、どういう方に向けてどのようなコンセプトを持って行う予定なのか、構想を教えてください。

プレゼン団体：日本全国、世界にいる文京区にゆかりのある人に向けて、こんなつながりを目的にしたかるたが出来る、という形で発信していきたい。寄付をしてくださった方には完成したかるたを渡すことを考えている。かるたの印刷に多額の費用がかかるので、一度にたくさん印刷して、なるべく単価を安くしていきたい。思い切って大きく呼びかけていきたい。

各務本部長：かるたを使ってコミュニティを形成する、つながりを可視化するという地域ニーズをどう捉えているか。また将来の寄付者にその重要性をどのように説明していくのか。

プレゼン団体：実際に、あるコミュニティスペースについてのかるたを作成したが、普段地域活動を活発に行っているその場所の運営者の方ですらマンション住民とつながっていないと話をされていた。人と人が出会うきっかけがないとつながらないということに改めて感じた。かるたは、防災、子育て、観光など様々な情報が一緒くたになっているので、色々な人が集うことができ、新しい多様なネットワークが生まれるきっかけになると思っている。

安藤本部長：かるたのようなツールは始めに無償配布をしてユーザーを増やし、その後有料化するという戦略が一般的だと思うが、かるたを制作した後は幼稚園、保育園などへ

の無償配布も考えているのか。

プレゼン団体：価格戦略については、きちんと決め切れていない部分もあるが、1つのコミュニティにおいては1セットしかいらなと思うので、そのあたりには、無償配布を考えている。基本的には、書店等においてもらうことを想定している。

安藤本部員：何のプロモーションもない中で売れることはないので、無償版、普及版を分ける、有料のものにはおまけをつけるなど、第2クールでは商品計画、マーケティング戦略を構築して行ってほしい。

八木本部長：かるたを商品としてみた場合に、お年寄りに対しては大きな文字、子どもに対しては難しすぎないものなど、使ってもらう対象者によって、商品設計が異なってくるのではないかと。何パターンか作る必要も出てくるかもしれない。ターゲットはどこに絞ろうと考えているのか。また、「かるたづくり隊」の構成、人数はどのように考えているのか。

プレゼン団体：高齢者に向けては、大きな版でないと使えないというのは理解している。しかし、団体としては、まずは、子どもがいるところで使ってもらいたいと考えている。づくり隊の人数は20人くらいで、識見者にも入ってもらいたい。これから募集を始めていく予定である。

菊地本部員：コミュニティでかるたを作るといったときに、作る側と使う側のイメージが一致しないと難しいのではないかと。子どもたちに使ってもらいたいという話があったが、例えば、区内の20校の小学校それぞれで47枚を20通りつくるのか、それとも150以上の町会から手上げ方式で行うのか。どのように展開をしていくのか考えを教えてください。

プレゼン団体：手上げ方式でやりたいコミュニティを募集したいと考えている。小中学校も回っているが、年中行事があり忙しく、年の途中で入れてもらうのは難しい印象であった。町会も数が多いため、すべての町会で行うことは難しい。出てきた全ての案を札にするのは難しいが、ホームページを立ち上げているため、そういった場所で古い町会名を入れるなど、多くの方が関わり、興味があるものにできるように工夫していきたい。

熱田観光・国際担当課長 兼務 オリンピック・パラリンピック推進担当課長：観光という観点では、どのようにかるたを活かせるのか。

プレゼン団体：人によって全く興味のないテーマと、とても興味を示すテーマがある。文京区といえばの名所や訪れてみたいところは外さないように作っていく予定である。例えば10のかるたのうち、6~7を名所などの観光用、3~4をコミュニティ形成用というイメージで考えている。

熱田観光・国際担当課長 兼務 オリンピック・パラリンピック推進担当課長：複数バージョン作成するという予定であれば、観光に特化したものを作るというものもあるかもしれない。もし、そのようなかるたを作るのであれば、観光協会等と連携して販売をするのもいいのではないかと。観光協会とのつながりが必要であれば、協力したい。

<プレゼンテーション3>

プロジェクト名：ぶんきょう・いんぐれす

団体：ぶんきょう・いんぐれす

<質疑>

各務本部員：主催者、エージェントの他にどのような方が関わるのか。また、収入、コストなど事業モデルについても教えてほしい。

プレゼン団体：主催者、エージェントの他にスポンサーがいる。イングレスそのもののスポンサーとしては、伊藤園やローソン、三菱東京 UFJ 銀行などがある。ぶんきょう・いんぐれすとしても、web 上で区内の史跡などを紹介しており、バナー広告による収入などスポンサーを獲得していきたいと考えている。ぶんきょう・いんぐれすは、イングレスを活用・利用することによって地域活性化を目指そうとしている団体である。

各務本部員：エージェントというのは誰になるのか。まだまだ一般的なゲームではないので、一般の方にも分かるように説明をした方がよい。

プレゼン団体：エージェントというのはイングレスのプレイヤーのことである。音羽地区町会連合会でもこのプロジェクトについて説明をしているが、その際には、四国の御朱印帳を例にしている。御朱印帳は 88 箇所をめぐるスタンプを押していくが、今はスマートフォンでそれができて、スタンプもスマートフォン上に押されるイメージだと伝えている。町会長には、住宅地に迷惑をかけないようにやっていくので、応援をしてほしいというお願いをしているところである。

菊地本部員：事業の成果、実績の測定を考えたときに、イベントの参加人数を実績とする場合、どのように正確な人数を把握していくのか。個人が自由に回る形をとっている中で、正確に測定していくのは難しいように感じる。また、純粋にイベントに来た人でなく、イベントとは関係なくイングレスをプレイし、ポスターの貼っている商店に来所するような参加者もいるのではないかと。どのように把握しているのか教えてほしい。

プレゼン団体：フリーマーケットに焼き芋いんぐれすとして出店した際に、参加者にアンケートをとったことがある。50 人近くにアンケートをとったが、元々ぶんきょう・いんぐれすを知っているという人が 8 人、近くに住んでいるという人が 37 人、他地域に住んでいる人が 8 人という結果であった。他地域に住んでいる 8 人は、純粋にウェブからぶんきょう・いんぐれすの情報を知り、来てくれたということを知ることができた。今回、焼き芋いんぐれすを実施するにあたってアンケートをとりたいと考えている。

古矢本部員：高齢者などゲームを理解しづらい人にも分かるような簡単な説明を心掛けていくことが大切ではないか。また、区民課としては、このゲームを通して、マンション住民や町会の方など地域の方がつながり、地域活動が活発化することを期待している。

プレゼン団体：まさにそれが重要だと考えている。町会も高齢化しているため、若い人を取り込むための手段として考えている面もある。若い人が入ることで、町会や地域の活

性化が期待できる。

安藤本部長：ポケモンイングリッシュについて、具体的に教えてほしい。

プレゼン団体：グーグルと任天堂が連携して行う事業で、これまで携帯ゲームの中の世界であったポケモンを、実際にどこかの場所に行くことによって、モンスターをゲットできるというものである。来年2月のリリースが予定されている。一緒に活動をしているメンバーがボーイスカウトにも関わっており、子どもたちとのつながりもある。ぶんきょう・いんぐれすとしてもポケモンイングリッシュを活用していきたいと考えている。

安藤本部長：JR で夏休み等に行っているポケモンのスタンプラリーのようなイメージと理解した。

八木本部長：ウェブ上の広告収入でやっていくという話をされていたが、企業等の予定はあるのか。

プレゼン団体：実際には、まだページビューはあまりないため、広告代理店に入ってもらっていない段階である。知名度を高めてから、協賛を募っていききたい。当面は、支援金又は自己資金で無償配布して周知していく予定である。

各務本部長：ポケモンイングリッシュを活用して、地域に根付かせ活性化を図っていくことだが、オリエンテーションを実施するときのように、その際に必要となるスキルやノウハウはどのようなものだと考えているか。

プレゼン団体：例えば、どこの場所にどのポケモンが出るなどの情報を集め開示するとともに、子どもたちを安全に遊ばせたいと考えている。今はノウハウを蓄積しているところである。

各務本部長：人員配置やコストについても考えていく必要があるのではないかと。

プレゼン団体：今、文京区で活動しているエージェントなどにも呼びかけてやっていければと考えている。イングリッシュにおいてレベル8というのが、ゲーム内で様々なことができるようになる目安のレベルになるので、レベル8以上のエージェントに呼びかけていきたい。

八木本部長：何も知らないところから始めてどれくらいでレベル8に到達できるものなのか。

プレゼン団体：私は1ヶ月、メンバーは5ヶ月くらい。一番最短で2週間で到達した知人もいる。

<プレゼンテーション4>

プロジェクト名：「ようこそサカミチ in 文京 2023」(減災連携ステイクホルダーミーティングのモデル化とサカミチ観光開発事業)

団体：本郷いきぬき工房

<質疑>

各務本部長：湯島での活動の話があったが、本郷の障害者との関係など、そのあたりをもう少し詳しく教えてほしい。また、収入と経費など、中長期的な事業モデルについて

も確認させてほしい。

プレゼン団体：湯島は、国の地域防災計画のモデル地区になっており、防災に熱心な方も多く、事業所と住民が連携をし、避難所開設などの高いノウハウを持っている。私たちの団体は、そういった活動の隙間を埋めていきたいと考えている。この間、社会福祉協議会と協力して、視覚障害者など障害のある方とともに、障害者の防災をみんなで考えるというワークショップを行った。広報期間が短かったにも関わらず、多くの方に参加いただくことができ、ニーズの高さを感じた。今後こういった活動を続けるにあたって、防災の話だけだと重い話になりがちなので、坂道ツアーや街歩きなど楽しいことと組み合わせたいと考えている。収入については、街歩きアプリや防災マップアプリが収入源にできるのではないかと考えている。障害者向けの防災事業については、先進的な取組となるため、事例もあまりなく、しばらくは公的な助成金などがベースになるのではないかと考えている。

榎戸防災課長：坂の駅のイメージについて、詳しく教えてほしい。

プレゼン団体：坂の近くにある商店や町会の方で歴史を語れる人のお宅などを坂の駅として掲げてもらい、観光客などが気軽に立ち寄れる場所にするのを考えている。駅長として、その坂について詳しく語るができたり、駅長養成講座を受講してもらい、観光だけでなく、いざという時には、救命救助などを行うことができる人が常駐しているイメージ。駆け込み寺的な役割も担えるのではないかと考えている。

八木本部長：活動を継続するために、収入源の確保も考えていく必要があるのではないかと。坂の駅についても、どうすれば収入源となるのか、ならないのであれば、どこからの収益を充てにするのかなどを考えてほしい。障害者にターゲットを絞り、ニーズにあったサービスを提供していくことはとても良いと感じた。現在は、本郷を中心でやっているということだが、文京区全体に広げていこうという考えは持っているのか。

プレゼン団体：本郷が出身のため、本郷から進めているが、文京区全体、また地震が多い海外の国にも広げていければと考えている。

八木本部長：これから他地域に広げていくためには何が必要だと思うか。また、メンバーとしてはどのようなノウハウを持った人が必要だと考えているか。

プレゼン団体：私たちが開催する事業、イベントの参加者からは、楽しかったという感想をよく聞く。楽しんでもらうということをコンセプトに進めていければと考えている。現在のメンバーは、防災の専門家が多いため、事務局ができるようなマネジメント系の人材が必要だと感じている。

安藤本部員：これから必要とされる事業だと思うが、NPOへの法人化などは考えていないのか。コアメンバーやネットワークが確固たるもになればビジネスモデルも確立し、寄付金も集まりやすいのではないかと。

プレゼン団体：新たな公共プロジェクトの事務局とのミーティングでも法人化の話は出

ている。公共性が高い事業なので社団法人よりも NPO の方が合うとは思っているが、今後検討をしていきたい。

4 プロジェクトの選考について

選考委員の合議により、文京かるた隊、ぶんきょう・いんぐれす、本郷いきぬき工房を「継続力向上」の区分での継続支援を決定した。NPO 法人 ArrowArrow については、支援金の使い道や成果指標の設定等本部員からの指摘事項についての確認を前提として、「条件付継続力向上」の区分での支援を決定した。

5 その他

阿部協働推進担当課長：2014 年度以前に支援をした 5 団体の活動状況、2015 年度新たな公共プロジェクトの事業実施状況、文京区社会福祉協議会ボランティア・市民活動センターの機能拡充について説明。

八木本部長：審査結果については、明日以降各団体に連絡をする。次回本部は 2016 年 3 月 24 日（木）午前を開催する。

6 閉会

以上